

日本工業規格 (JIS) 改正の概要

2016年4月20日付で、次の表に示す日本工業規格 (JIS) が改正されたので、その概要を紹介する。

改正発行 JIS

No.	規格番号	規格名称	対応国際規格 (一致程度)
1	JIS B 1554	転がり軸受－ロックナット、座金及び止め金	ISO 2982-2:2013, Rolling bearings—Accessories—Part 2: Dimensions for locknuts and locking devices (MOD)

改正の概要

1. JIS B 1554 (転がり軸受－ロックナット、座金及び止め金)

(1) 改正の背景

この規格は、1955年に制定され、現在まで6回の改正を行った。前回の改正は2005年（以下、旧規格という。）に行なったが、2009年に発行した旧規格の正誤表の内容を反映した上で、対応国際規格 ISO 2982-2:2013に整合させ、規格様式を最新のものにして改正した。

(2) 主な改正事項

- 規格表の様式を **JIS Z 8301** に適合した。

- 適用範囲（箇条1）

ロックナットは“4切欠き形”と“8切欠き形”とに分け、座金は“直舌付き”と“曲げ舌付き”とに分け、曲げ舌付きを**附属書A**に移動し、止め金は“止め金及び適用するボルト”とした。

- 量記号（箇条4）

止め金及び適用するボルトの**図4**に、ボルトの図及び注記“ばね座金などによってボルトの緩み止めを施してもよい。”を追加した。

- 呼び番号及び寸法（箇条5）

止め金の呼び番号及び寸法の表に、“適用ナット呼び番号”及び“ISO 止め金 No. (参考)”を追加し、適合部品の関連性を明確にした。

- 許容差及び許容値（箇条6）

1) “公差”は、転がり軸受の分野で一般に使用される“許容差及び許容値”に変更した。また、“寸法公差”は“許容差”に変更した。

2) **表9～表11**の許容差の“上限／下限”は、“U／L”に変更した。U及びLの説明は、**6.3**に追加した（U：上の許容差／L：下の許容差）。

3) **表9**の注^{b)}にロックナットのねじの有効径に対する座面の円周振れSの測定位置を追加した。

4) 呼び番号AN106, AN112, AN120, ANL106, ANL112及びANL120のロックナットのねじの有効径に対する座面の円周振れSは、旧規格の0.2から0.15に変更し、**表9**の注^{e)}に規定した。